

吉田の火祭り

毎年8月26日に行われる吉田の火祭りは静岡県島田の帯祭り、愛知県の国府宮のはだか祭りと並んで日本三奇祭の一つに数えられる有名なお祭りです。当日は多くの観光客や出店が祭りの雰囲気より盛り上げ、18時頃になると松明に火が灯され、このように街は火の海のようになりとても幻想的な姿になります。年に一度のお祭りですが皆さんもご覧になってみてはいかがでしょうか。



昭和大学松明奉納

初年次の国際交流

意思伝達の難しさ

医学部 福島県立磐城高校出身 蛭田 剛基

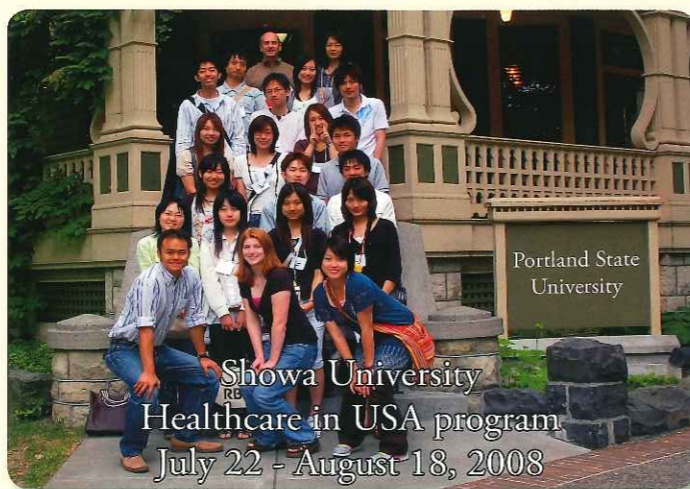
今回の短期留学で一番いい経験になったのは、母国語の異なる人々とたくさん会話できたことです。苦勞して頑張って、自分の思いや考えが相手に伝えられたとき、また、相手の言っていることが理解できたときの感動は言い表しようがない！これは経験した人にしかわかり得ないと思います。しかし、日本語では頭に言いたいことが浮かんでも、それを英語で言えずもどかしい思いをすることもしばしばありました。今回、自分の考えどう言葉にして相手に伝えるか苦勞した経験、また、相手の言葉を聞き取り、相手の意図を読み取るのに苦勞した経験は、私が将来医療者となり病める人と接する上で必ず生きると確信しています。



Portland に行って

保健医療学部看護学科 群馬県立中央高校出身 土肥 奈々美

私にとって初めてのアメリカ。初めてのホームステイ。何もかもが新鮮であり、大自然でのアクティビティによってとても充実した日々を送ることができました。アメリカと日本の文化や習慣の違いはもちろん、医療施設・医療システムの違いについても多く学びました。会話はもちろん英語ですが、英語が苦手な人でも大丈夫なようにプログラムが組まれているので、あまり不安に感じることはありませんでした。慣れてくると外国人と会話するのが楽しくなり、積極的に会話をしていたぐらいです。今回の旅で得たものは、言葉では言い表せないぐらい貴重なものでした。また、いつか英語を勉強してホストファミリーや向こうのスタッフに会いに行きたいです。



ドイツ・フライブルク大学 語学研修

薬学部 私立狭山ヶ丘高校出身 増子 幸志

私は高校の修学旅行で海外に行き、またいつか外国に行きたいと思っていたのでこのプログラムに参加しました。フライブルクはとても快適な場所でした。空気が乾燥していて毎日過ごしやすく、地元の人も優しく接してくれたのでとても充実していました。また、フライブルクはスイスやフランスとも近いので私は両国にも行きました。喜多村先生と森川先生にはスイスのバーゼルにある製薬会社Novartisの見学に伴ってもらいすごく貴重な体験をしました。授業もドイツ人の先生が一生懸命教えてくれたので楽しくかったです。異文化に触れることは何もかもが新鮮で、もちろん大変なこともあります、何事も経験が大事なので良い思い出になりました。



ドイツ フライブルク市風景

スイス バーゼル市庁舎前にて

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

白百合 樺

昭和大学だより
第3号 2008.10.18 発行

発行責任者 富士吉田教育部長 片桐 敬
編集責任者 富士吉田教育部教授 喜多村 得也
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403



倉田知光撮影

学生部長挨拶

富士吉田教育部 学生部長 田中一正



昭和大学は、医系大学ですので大学を卒業しただけでは希望の職業につくことは出来ず、国家試験合格を果たして初めて医療人と成り得ます。そのためには希望し、入学した学部を卒業しなければ、その受験資格を得ることは出来ません。

青春真っ只中、やんちゃもたまにはするでしょう。みなが集まれば

つい調子に乗って羽目はずすこともあるでしょう。やんちゃが時には、とんでもない事になることもあります。取り返しのつかないことと表現されますが、今行った行為は元には戻りません。

コンピュータゲームの世界ではリセットできるかもしれませんが、現実に生きている世界では元には戻りません。

患者の患という字は心が串刺し状態の人と書きます。病気により今まで自分にできていたことができなくなり、今までどおりの社会参加ができなくなります。その患者さんを支援するためには、医療人として持っている知識と技能をその患者さんに応用出来なければなりません。そのためには、知識を持つとともに、患者さんの生活を知ることが大切です。

そのためには、人が嫌いでないこと、人としての経験をつむこと、知識を使う責任を知ること、寛容の心を養うことを是非学んで欲しいと思います。

親は若かりし自分の失敗を子にさせまいと保護し注意を与え、出来れば嫌なことを経験しないで欲しいと願ってやみません。

医療事故を防ぐため、ヒヤリハットという運動が行われています。

ヒヤリハット運動はアメリカの技師ハインリッヒが労働災害の事例を統計分析し見つけた「1:29:300」というハインリッヒの法則に基づいています。すなわち、1つの重大事故の発生する背景に29の軽症事故と300のひやりとすることやはっとする未事故が存在しているというもので、いつやって来るか分からない災害を未然に防ぐには、不安全な状態や行為を認識し、ヒヤリ・ハットの段階で地道に対策を考え、実行（よい習慣として身につける）していかうとするものです。寮生活の中でお互いを見つめ、自分を振り返り、ヒヤリハットの積み重ねから切磋琢磨が始まります。

35年を過ぎた今日でも寮でともに過ごした友が心配してくれます。一人では出来なかった人生の設計図を沢山の友が支えてくれています。

人もまたあなたを求めています。今日までの自分は、自分だけが、自分だけは、自分の、になっていませんか。あなたは人から求められる人になっていっていますか。欲するだけでは我がままです。

医療人にとってもっとも大事な他者優先を考えられるよい機会です。この1年を、自分作りの時間にしてください。

学生部長として一言付け加えさせていただきます。

事故なく2年次に学生の皆さんに進級していただくためには、多少の管理が必要であろうと考えています。保護者連絡先などは災害・事故のありました時に必要な事項です。最終試験に遅れてきた学生を助けたのもこの身上書掲載の正確な連絡先でした。始末書は社会的道徳的背景に鑑みて禁止、あるいは遵守していただきたいという事に違反した場合に科せられるものです。

始末書の運用に当たりましては、ご父兄様には、昭和大学の人を育成する環境教育をご理解頂き、生活指導へのご協力をご一緒にお願いするものであります。

◎早期体験実習 ～医療人に一步近づく～

医療人を目指してスタートした富士吉田での生活に慣れてきた7月に薬学部、理学療法学科ならびに作業療法学科が、10月に、歯学部ならびに看護学科がそれぞれ早期体験実習を行いました。実習は、将来医療人となるために医療や福祉の現場を見学、体験して医療人としてふさわしい態度や技能、コミュニケーション能力の修得、チーム医療の意味と重要性などを身につけることを目的としています。昭和大学の附属病院、甲府市内の総合病院、大学近隣の山梨赤十字病院、富士吉田市立病院や介護施設、支援学校、薬局などで見学や実務の補助、外傷救急・心肺蘇生法などを1週間にわたって行います。早朝、施設への出発前には不安そうな顔をしている学生たち

も、1日の実習を終えて帰ってくると、疲れ切った顔の奥に、一回りも二回りも成長した、輝く瞳を見せてくれます。障害者施設や高齢者介護施設などで実習を行ってきた学生の中には、実習中の出来事に、感動のあまり涙ぐんで教員に一日の報告をしている姿も見受けられました。僅か1週間の早期体験実習ですが、学生たちが将来医療人の1人となる自分をイメージして、外の社会で体験し学んでくることが、確実に医療人に一步一步近づいて行っていることを実感できる瞬間でした。



実習前の激励



身だしなみのチェック



白衣で実習先へ



病院見学へ出発



発表前の資料づくり



全体発表会風景

◎教育懇談会 =よりよい教育への教員と学生との話し合い=

6月24日(火)に富士吉田教育部教員と学生教育委員(医学部、歯学部、薬学部から各2名、保健医療学部から各学科1名、合計9名)との間で教育懇談会が実施されました。懇談会は伊藤教育委員長の挨拶ではじまり、約2時間話し合いが行われました。事前に各学部の学生教育委員がアンケート調査を行って、学生全員の意見を取りまとめて準備していたため、会はスムーズに進行されました。主な内容は、①オリエンテーションについて②選択科目について③これまでの授業について④教室の設備について⑤PBLについての5項目であり、各項目の「良かった点」「改善すべき点」について意見交換されました。全体的には、多くの活発な意見がだされ、内容的に

も重要な指摘が多く、お互いに有意義な時間を過ごし無事終了しました。



第1回 昭和大学富士吉田教育部 オリエンテーリング大会を終えて

富士吉田教育部 体育学教室 堀川 浩之

オリエンテーリング大会は道路事情の悪化により昨年度で中止となったロードレース大会を引き継いで始めました。学生同士あるいは学生と指導担任との親睦を深めることを目的として5月10日(土)に鳴沢村緑の休暇村で実施することが予定されていましたが、雨のため延期となり7月12日(土)の開催となりました。当日は晴天に恵まれ暑い一日でした。運営する側としては熱中症等が気になりどにかく皆無事にゴールすることを願いました。後で知ったことですが関東地方が梅雨明けの日でした。オリエンテーリング大会では6kmのコースを74チームが参加し唯一1時間を切る59分で走破した宮崎先生のグループもあり、高橋留美先生グループの2チームは後半でともに3位入賞する頑張りを見せました。そのほかのチームも時

にはコースを後戻りしながらもみんな仲良く無事にゴールインしてくれ本当に若さがまぶしい一日でした。



コースはじめは元気よく



昼食でまた元気に



全員無事ゴール(かなりバテぎみです)